

— 魅力的な自然史博物館活動を目指して！ —

理事長 天岸祥光

会報 50 号を記念して

年 4 回発行の会員向け会誌「自然史しずおか」が 50 号を迎えました。私がこの NPO の会員になったのが平成 23 年 4 月ですが、一番初めに感心したのがこの会誌です。内容については理事会で検討し、現在柴 正博理事と横山謙二さんによって編集されていますが、なにしろ表紙をはじめ各ページの写真がまず美しい。また専門的な説明もいたって平易で読みやすく、私のような素人でも感心しながら読める。自分の立場も考えこの会誌を初めから全部読んでみようと思ったものの、そちらはまだ道半ばながら、とにかく人の目に触れずにこのまま埋もれてしまうのはもったいないと思っています。

今回の記念号でもある程度これまでのまとめが行われますが、私はこれまでの 50 冊をハードカバーで纏めてミュージアムの図書館などに何冊か置いたらどうだろうかと思っています。さらに索引をつくり興味のある人が容易に内容に到達できるようにできたら、そして最終的には現在ホームページでも掲載されている会誌の索引リンクを整備したら、素晴らしいだろうと思っています。これには人力と時間が必要ですが、しかしそうするだけの価値はあるだろうと確信しています。

これからの NPO の立ち位置

我々の初期の目的である「静岡県に県立自然史博物館を！」は、県により「ふじのくに地球環境史ミュージアム」が今年 4 月に設置されたことにより、達成されました。そして我々 NPO は定款の目的を設置運動から新ミュージアムの運営に協力することに変更し、その他の自然史研究に関する標本・資料の収集・保管、研究にかかわる事業は従来通りとしました。

ここで新たに大きく分けて二つの課題が生まれるだろうと思っています。

1) 地球環境史ミュージアム > 自然史博物館

つまり、我々は従来通りあくまで（静岡の）自然史を追及してやまない NPO であるのに対して、新ミュージアムはそれに留まらず、文系の要素も含む富士山世界遺産センターとも一体

となってやっていきたい意思を明らかにしており、この点とどう関わっていくかです。

NPO としては自然史に特化した範囲でミュージアムに協力、協働態勢を維持していくこととなりますが、その過程において齟齬をきたすことにならないようにしていくための知恵が双方に必要になってくると思っています。

2) 具体的な NPO の活動とミュージアムとの関わり

NPO 独自の今後の活動はあくまで静岡県及び周辺の自然史の調査・研究を続けていくこととなりますが、調査・研究におけるミュージアム研究員との共同作業は、それぞれの専門分野において NPO または個人との関わりにおいて積極的に行われるのが理想ではないかと考えています。

ミュージアムの基本作業として、資料等の保存・整理事業がありますが、NPO のそれに関する関わり方は、ボランティア的な立場からではなく、従来通り県からの委託事業として受け入れていくのが健全な関わり方だろうと思っています。

また、ミュージアムの運営、展示などについての協力を要請された場合は、NPO として受託することにより、ミュージアムの発展に寄与していく立場で参加したいとも思っています。

同様に、自然環境教育に関わる事業についても、すでにスタートしているミュージアムキャラバン（小学校等を年 30 回程度回る）などミュージアムの名のもとに行われる事業については、あくまで県の方針に従って我々 NPO は協力していく姿勢に変わりありません。

その他、友の会などのボランティア組織を県が立ち上げたり計画したりした場合は、その協議に参加し、我々の方針と照らし合わせて対応していくことになるでしょう。魅力的な自然史博物館活動を目指して、我々 NPO 自然博ネットはふじのくに地球環境史ミュージアムの博物館活動に協力していきたいと思っています。もちろん、NPO 会員の皆様へのサービスとしては、従来通り会報の発行、観察会や視察会などは継続していきたいと思っていますが、さらに皆様からの要望があれば検討したいのでぜひお聞かせください。